

# 令和3年松本市議会6月定例会

## 市長提案説明

[3.6.7(月) PM1:30]

令和3年松本市議会6月定例会を招集しましたところ、議員の皆様、全員に出席をいただき、厚く御礼を申し上げます。

市長就任2年目の初めての定例会でありますので、議案の提案説明に先立ちまして、今年度の市政運営に当たる所信を述べさせていただきます。

今年度、令和3年度も、新型コロナウイルスへの対応を最優先の課題としてスタートしました。感染力の強い変異株の広がり、大型連休明け以降、複数の高校でクラスターが発生しましたが、保健所が実施した幅広いPCR検査と感染経路の情報に基づく注意喚起、市民一人ひとりの感染防止策の徹底によって、松本市内の状況は落ち着きを取り戻しつつあります。

そして、懸案であるワクチン接種については、75歳以上の高齢者の予約がほぼ完了し、予約率は80.7パーセント。昨日までに1万2,800人が1回目の接種を、およそ2,500人が2回目までを終了しています。65歳から74歳までの方々についても、一昨日から年齢区分ごとに予約の受付を始めました。

今月からワクチン接種の専門部署を新たに設置し、医療機関や医師会、歯科医師会、看護師会、薬剤師会などの支援をいただきながら、来月7月末から8月初めにかけて高齢者の接種を完了する予定です。

ワクチン接種が進んでいるヨーロッパやアメリカでは、

感染リスクを抑え込み、社会生活や経済活動が通常に近づいている様子が報道されています。日本でも、感染リスクが大きい高齢者の接種が完了すれば、日常活動の自由が広がることが期待されます。

長いトンネルの先に見えてきた光を、明るく力強いものにするために、64歳以下に対する予約方法やスケジュール、接種会場を詳細に検討し、ワクチン接種の一段の加速化を図っていきます。

先週末、非常にショックな統計が発表されました。昨年、日本で生まれた子どもは、84万832人と過去最少。政府の推計より3年早く84万人台に落ち込みました。更に、結婚の件数が、前の年から一気に7万3,517組、率にして12.3パーセントも減少しました。家族観の変化や経済の停滞に加えて、コロナ禍が、日本の少子化に拍車をかけています。

少子化にどう向き合い改善を図っていくかは、持続可能な循環型社会を目指す松本市にとっても、極めて優先度の高い重要な問題です。

「松本市基本構想2030」の具体的な取組みを示す、この程まとめた「第11次基本計画」の案では、基本施策の第1の分野として「こども・若者・教育」を位置付け、その筆頭に「結婚・出産・子育て支援の充実」を掲げました。

この「第11次基本計画」案につきましては、本会議終了後の議員協議会で協議していただく予定になってはいますが、第10次基本計画の基本施策をベースとしつつ、時代の変化を踏まえた新たな視点から見直しを行い、この5年間で力を注ぐ主要な取組みを47の施策にまとめました。その上で、「ゼロカーボン」と「DX・デジタル化」を、全ての施策に

関係する重点戦略に位置付けています。

昨年秋の時点で、松本市の人口は、5年前に比べておよそ2,000人減り、戦後初めて減少に転じました。この現実を直視し、若い世代、働き盛りの世代が住み続けたい街になるよう、「三ガク都に象徴される松本らしさ」をシンカさせていきます。

「国宝松本城を世界遺産に」と、松本市に実行委員会が設立されてから、20年が経とうとしています。その節目の年に、文化庁が、世界遺産登録の審査対象となる国内リスト、いわゆる「暫定一覧表」を、14年ぶりに見直す方針を決めました。

松本市は、14年前に、松本城の暫定一覧表入りが見送りになって以降、単独の登録ではなく、先に世界遺産となった姫路城の拡張遺産として、犬山城・松江城・彦根城を含めた国宝五城による「近世城郭の天守群」の登録を目指してきました。

見直し作業が開始される今年秋から、追加登録が決定される来年夏ごろにかけては、文字通り正念場であり、この1年余りが世界遺産を目指す最後のチャンスになるかもしれません。

これまで足並みを揃えてきた、犬山・松江両市の市長と3者で、今月と来月に、意見を交わして結束を確認すると共に、単独の登録を目指してきた彦根市や、姫路市の市長とも会談の機会を探り、自治体間の協力体制の構築に努めていきます。

そして、3市の市民交流会や「松本城の日」を決めるコンテストを開催するなど、市民の気運を高める取組みを進めていきます。

松本城と周辺区域については、「世界水準の歴史観光エリア」として総合的に整備する方針を掲げ、4月から市役所内に「お城まちなみ創造本部」を設置しました。

かつて総堀に囲まれていた、いわゆる三の丸エリアは、歴史的にも現代においても、松本市の中核をなす場所であり、しかし、これまでは総合的なビジョンを共有せずに、それぞれの部署が、外堀の復元、博物館の移転、市役所の現地建て替えなどに取り組んできました。

このため、改めて、北は旧開智学校、南は女鳥羽川までを区域に定め、今年度中に「松本城三の丸エリアビジョン」を策定します。策定に当たっては、様々な分野の専門家から技術的な助言を受けながら、大勢の市民や活動団体の皆さんと地域の課題や将来の展望を共有し、「松本らしさ」をシンカさせる公民連携のビジョンを作り上げていきます。

「松本市立病院の建設事業」について申し上げます。

松本市立病院の建設事業は、当初の過大な計画の見直しを余儀なくされ、平成30年7月に一旦中止になりましたが、市長交代の直前に 鉄工所跡地への移転が白紙に戻ったことを受け、昨年6月から新たな建設計画の策定に着手しました。

その後、内外の病院の経営者や院長らで構成する専門者会議に、新病院のあり方や規模、診療科目や経営形態などの検討を委ね、市立病院内のプロジェクトチームの構想案と共に、昨年末に提言を受けました。

そして、年明けの新型コロナの感染拡大を挟んで、市長部局と病院側による庁内調整会議で11回に及ぶ協議を重ね、新病院建設計画の 骨子のとりまとめに向けて、詰めの作業を進めてきたところです。

市議会に対しましては、定例会の最終日に、これまでの検討内容を報告し、協議していただく予定です。更に、来月前半に、地元の住民説明会や多事争論会、パブリックコメントなどを行って、幅広く市民の声を聞いた上で、8月中には、建設候補地を含めた建設計画を議会に示して、最終的な協議をお願いしたいと考えています。

最後に、「スーパーシティ構想」について申し上げます。

いわゆる「スーパーシティ型国家戦略特区」の区域指定に向けた取組みは、昨年秋からスタートし、今年4月、「市民と地球のいのちを守る」と題して、「医療・介護」と「再生エネルギー」の2つの分野を柱とした構想を提出しました。

その後、3回にわたって行われたヒアリングを基に、政府内の審査が進められ、今月中にも採否が明らかになるものとみられます。松本市としては、その結果にかかわらず、スーパーシティ構想に盛り込んだ2つの分野を始め、幅広い領域でデータの活用やデジタル化の取組みを積極的に推進していく方針です。引き続き、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、ただいま上程された議案につきまして、ご説明申し上げます。

提案した議案は、条例15件、予算1件、契約2件、財産5件、道路1件のほか、報告案件として、緊急を要し専決処分した補正予算1件の合計25件です。

始めに、条例につきましては、地方税法等の改正に伴うもの、国の基準省令の改正に伴うものなど、改正15件を提出しています。

次に、予算としては、令和3年度一般会計補正予算1件

を提出しています。

今回の補正予算は、新型コロナウイルス感染症対策に関する経費、新規に事業化が必要と思われる政策的な経費、国や県の補助事業に伴う経費などを中心に、各事業の進捗を図る予算編成を行いました。

主な内容は、新型コロナウイルス感染症対策関係予算として、ワクチン接種を希望する高齢者全員に対し、7月末を目途に実施するため、2億9,510万円を追加し、当初予算と合わせておよそ14億2,000万円とするもの、新型コロナによる影響が長期化する中で、低所得のふたり親世帯に対しても、国が子育て世帯生活支援特別給付金を給付していることから、遅滞なく給付するために必要な経費を計上しました。

また、政策的な事業としましては、重要課題に関する3つの検討会議を設置する費用を計上しました。

1つは、待機児童を解消すると共に、就学前の教育環境の充実を図るため、公立・私立の連携を含めた「松本市の新たな保育・幼児教育のあり方」について研究する専門者会議の設置費用です。

もう1つは、松枯れ対策と森林の再生・利活用に関する「松本市森林再生会議」の提言を実行に移すため、新たな専門者会議を設置する費用です。

更に、松本城の玄関口的な場所に建設される新博物館について、社会教育的な観点と合わせて賑わいの創出に寄与する施設とするため、1階部分の活用方法を検討する市民会議を設置する費用を計上しました。

このほか、空港周辺整備事業の一環として、市道の整備を行うリフレッシュロード事業費に3,000万円を計上しました。

歳入につきましては、新型コロナウイルス感染症対策経費のうち、国と県からの補助金で賄えない部分について、これまでと同様に財政調整基金繰入金を計上しました。

この結果、一般会計は、6億1,117万円の追加で、補正後の予算規模は、前年度同期比16.3パーセント減の1,024億3,999万円、全会計の補正後の予算規模は、5月に専決処分した市街地駐車場事業特別会計の補正予算を含め、1,816億9,995万円となり、前年度同期比では9.6パーセントの減となりました。

次に、契約案件につきましては、エコトピア山田の新処分場の整備のために既存の廃棄物を移設する工事、並びに国宝旧開智学校校舎の耐震補強工事の、請負契約2件を提出しています。

財産につきましては、松本城南・西外堀復元事業用地の取得1件のほか、四賀地区、奈川地区の町会へ、集会施設などを無償譲渡するもの4件を提出しています。

その他の議案として、市道認定1件を提出しています。

議案以外のものとしましては、令和2年度の繰越明許費繰越計算書の繰越し3件のほか、松本市が資本金等の2分の1以上を出資している法人の事業計画など7件を報告しています。

以上、本日提案いたしました議案等につきまして、説明を申し上げます。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

(以上)